

日本

JAPAN HERITAGE

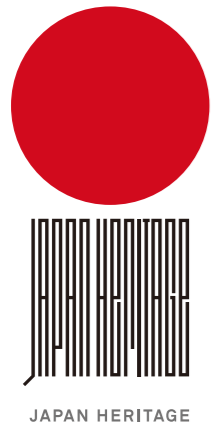
遺産

地域の歴史と伝統文化を学ぶ

協力：文化庁
日本遺産連盟



1



「日本遺産」って なんだろう？

文化庁から「日本遺産」の認定を受けたストーリーの、パンフレットやホームページなどには、左のロゴマークがつけられています。

●日本遺産とは？

わたしたちのくらす日本には、長い歴史によって生み出された地域独自の伝統文化や風習が全国各地に存在しており、いまも世代をこえて大切に受けつがれています。

たとえば、美しい自然にめぐまれた湖周辺の土地では、湖でとれた魚などを中心とした交易がさかんになります。食材をよそへ運ぶ人びとの往来が増えると祭りなどが生まれ、その地域一帯の文化はどんどん華やかになっていきます。

そこには、その地域独自の自然、信仰、歴史、食文化、くらし、

●ストーリーってどんなもの？

これまでに認定されたストーリーには、ひとつの枠にとられないさまざまなテーマのものがああります。

たとえば、縄文時代に不思議な土器をつくる集落が多く生まれた豊かな土地がら、何百年も受けつがれてきた祭り、自然が生み出した景色、地域の人びとがつくり上げた水路や道路など、その内容は多種多様です。

「日本遺産」のストーリーとしてもっとも大切にされている

芸能や工芸といった伝統文化が根づいていきます。そのような世代をこえて受けつがれてきた風習、伝統文化をひとつにつないだ「ストーリー」として認定したのが「日本遺産」です。

「日本遺産」は、文化財を個別に大切に保存するだけでなく、地域の歴史や風土にもとづくストーリーの中に組みこんで、国内外の人びとに地域の魅力をもっと知ってもらうために活用しようとしてきました。

この本では、2019（令和元）年までに認定されている83のストーリーを2巻に分け、解説文と写真でわかりやすく紹介しています。まずは本を開いて、気になるストーリーから読んでみましょう。さらに深く掘り下げて調べてみるのもおすすめです。各地の文化や風土が織りなす日本の奥深さを、この本を通して楽しく学びましょう。

のは、ほかにはない「その地域らしさ」があるかどうかです。気候や地形によって、どのような伝統文化や産業が生まれたのか。また、地域の人びとのいまのくらしにどんな影響があるのか。そこにまつわる建物や遺跡はもちろん、長い歴史の中で受けつがれてきた祭りや技術、食文化、遠い地域とのつながりなど、多くの要素がからみ合って、ひとつのストーリーがつけられています。

日本遺産

地域のあちこちに散らばっている文化財や伝統文化をまるごと「ストーリー」として紹介している。（「なんだ、コレは！」 信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化の場合）



ストーリーには2種類ある

地域型

例1
ストーリー
12

六根清浄と六感治癒の地

～日本一危ない国宝宝篋と世界屈指のラドン泉～

地域 鳥取県（三朝町）

修行の場として知られる三徳山。訪れる人が山で心を清め、温泉で身を清めるストーリー。（→1巻 72ページ）



自治体 A

ストーリー

ひとつの地域で生まれた文化や独自の風土をストーリーにまとめているもの。

例2
ストーリー
63

百世の安堵

～津波と復興の記憶が生きる広川の防災遺産～

地域 和歌山県（広川町）

江戸時代、津波の被害にあった広川の人びとが、その後つくりあげた防災のまちとその工夫のストーリー。（→2巻 128ページ）



シリアル型

例1
ストーリー
39

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

～北前船寄港地・船主集落～

地域 北海道・青森県・秋田県・山形県・新潟県・富山県・石川県・福井県・京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・香川県

北海道から日本海や瀬戸内海を行き来し、各地に繁栄をもたらした北前船のストーリー。（→1巻 230ページ）



自治体 A

ストーリー

自治体 B

自治体 C

例2
ストーリー
50

きっと恋する六古窯

～日本生まれ日本育ちのやきもの産地～

地域 岡山県・福井県・愛知県・滋賀県・兵庫県

お皿から置き物、瓦、れんがまで、日本の中でも古くからやきものをつくり続けてきた6つの地域のストーリー。（→2巻 50ページ）



あるテーマにそってストーリーが展開し、関連する地域が複数にまたがっているもの。



日本遺産

地域の歴史と伝統文化を学ぶ

1巻 目次

この本を読むみなさんへ2
 「日本遺産」ってなんだろう?4
 この本の使い方8

1 茨城県・栃木県・岡山県・大分県 近世日本の教育遺産群 一学ぶ心・礼節の本源10

2 群馬県 かがあ天下 ～ぐんまの絹物語～16

3 富山県 加賀前田家ゆかりの町民文化が花咲くまち高岡 一人、技、心22

4 石川県 灯り舞う半島 能登 能登のキリコ祭り26

5 福井県 海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群 ～御食国若狭と鯖街道～32

日本遺産で見る日本の文化 すしのルーツ「なれずし」38

6 岐阜県 「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜40

日本遺産を彩る人びと 織田信長／豊臣秀吉44

7 三重県 祈る皇女斎王のみやこ 斎宮46

8 滋賀県 琵琶湖とその水辺景観 ～祈りと暮らしの水遺産～50

9 京都府 日本茶 800年の歴史散歩56

10 兵庫県 丹波篠山デカンショ節 一民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶62

11 奈良県 日本国創成のとき ～飛鳥を翔た女性たち～66

12 鳥取県 六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～72

日本遺産で見る日本の文化 1300年以上前から利用されてきた日本の温泉76

13 島根県 津和野今昔 ～百景図を歩く～78

14 広島県 尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市82

15 徳島県・高知県・愛媛県・香川県 「四国遍路」～回遊型巡礼路と独自の巡礼文化～86

16 福岡県 古代日本の「西の都」～東アジアとの交流拠点～92

日本遺産で見る日本の文化 遣唐使たちの旅96

17 長崎県 国境の島 壱岐・対馬・五島 ～古代からの架け橋～98

18 熊本県 相良700年が生んだ保守と進取の文化 ～日本でもっとも豊かな隠れ里一人吉球磨～104

19 宮城県 政宗が育んだ「伊達」な文化110

日本遺産を彩る人びと 伊達政宗／大久保利通116

20 山形県 自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』118

～樹齢300年を超える杉並木につつまれた2,446段の石段から始まる出羽三山～

21 福島県 会津の三十三観音めぐり ～巡礼を通して観た往時の会津の文化～124

22 福島県 未来を拓いた「一本の水路」 大久保利通 “最期の夢” と開拓者の軌跡 郡山・猪苗代130

23 千葉県 北総四都市江戸紀行・江戸を感じる北総の町並み136

～佐倉・成田・佐原・銚子：百万都市江戸を支えた江戸近郊の四つの代表的町並み群～

24 神奈川県 江戸庶民の信仰と行楽の地 ～巨大な木太刀を担いで「大山詣り」～142

25 神奈川県 「いざ、鎌倉」～歴史と文化が描くモザイク画のまちへ～146

26 新潟県 「なんだ、コレは！」信濃川流域の火焰型土器と雪国の文化150

日本遺産で見る日本の文化 模様は縄だけじゃない！ いろいろな縄文土器156

27 石川県 『珠玉と歩む物語』 小松 ～時の流れの中で磨き上げた石の文化～158

28 長野県 木曾路はすべて山の中 ～山を守り 山に生きる～162

日本遺産で見る日本の文化 その地域でだけ見られる生物 日本の固有種168

29 岐阜県 飛騨匠の技・こころ 一木とともに、今に引き継ぐ1300年170

30 兵庫県 『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～174

読んでおきたい日本の神話 国土を生んだイザナギとイザナミ／ヤマタノオロチ退治180

31 奈良県 森に生まれ、森を育んだ人々の暮らしとところ ～美林連なる造林発祥の地“吉野”～182

32 和歌山県 鯨とともに生きる188

日本遺産で見る日本の文化 世界と日本の鯨文化194

33 鳥取県 地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市196

34 島根県 出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～202

35 神奈川県・広島県・長崎県・京都府 鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴208

～日本近代化の躍動を体感できるまち～

36 愛媛県・広島県 “日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島214

～よみがえる村上海賊 “Murakami KAIZOKU”の記憶～

37 佐賀県・長崎県 日本磁器のふるさと 肥前 ～百花繚乱のやきもの散歩～220

38 北海道 江差の五月は江戸にもない 一ニシンの繁栄が息づく町226

39 北海道 青森県・秋田県・山形県230

新潟県・富山県・石川県・福井県 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間

京都府・大阪府・兵庫県・鳥取県 北前船寄港地・船主集落

島根県・岡山県・広島県・香川県

40 山形県 サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ236

41 埼玉県 和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田240

42 滋賀県・三重県 忍びの里 伊賀・甲賀ーリアル忍者を求めてー244

用語解説250

地域別さくいん252

つわの 津和野今昔 ひゃっけいず ~百景図を歩く~



「津和野百景図」に描かれた流鏝馬と、現在の流鏝馬
江戸時代から続く鷺原八幡宮でおこなわれる流鏝馬。いまでも多くの観客が集まる。



ストーリー

100枚の絵に残した ふるさとの風景

津和野のガイドブック「津和野百景図」

江戸時代に津和野藩という藩がありました。小さな藩ですが、山に囲まれ、美しい川の流れる、自然にめぐまれたところです。現在の島根県津和野町周辺にあたります。

この津和野藩の名所や名物を、絵と文章で紹介した本が「津和野百景図」です。これは、江戸時代末期に津和野藩に仕えた栗本里治によって描かれました。

里治は武士でしたが、若いころに絵の勉強をしていたということもあり、お殿様といっしょに藩内を回る際に、名所などをスケッチしていました。これをもとに描かれたのが「百景図」です。これはいつてみれば津和野藩の公式ガイドブック。津和野の見どころ、おいしいものなどがたっぴりつめこまれているのです。

自慢のお城、自然、行事、食べ物

「百景図」には、100枚の絵とそのくわしい解説がおさめられています。

いちばんはじめは、津和野城。立派な石垣とその向こうにどっしりとした瓦屋根をのせたお城が、角度を変えて何枚も描かれています。絵の中には、出勤途中らしいお侍さんの姿もあります。

山や川や滝もたくさん描かれています。川にはたくさんの魚が泳ぎ、山にはほととぎすが飛ぶ、生き生きとした風景です。

お祭りや年中行事の絵もたくさんあります。踊る人や走る馬の絵は、いまにも動きだしそうで、観衆の表情はととも楽しそうに描かれています。

竹林から掘り出されたたけのこの絵は、ちよっ

「津和野百景図」に描かれたたけのこの城下の竹林は、津和野藩の自慢の風景だった。



と大きすぎに見えます。ところが、江戸時代の津和野では、太さが1m近くもあるような大きな竹が実際に生えていたのだそうです。それを考えると、このたけのこの絵はリアルな絵なのです。

「百景図」が守った津和野の風景

「百景図」に描かれた風景は、江戸時代末期の津和野です。それから150年以上たちましたが、津和野にはいまも「百景図」のままの風景がたくさん残っています。

150年の間には、鉄道が導入され、電気が普及し、鉄やコンクリートの建物、道路があたりまえになりました。でも、ふるさとを大切にする津和野の人びとは、「百景図」に描かれたかけがえのない津和野を守ろうと努力しました。いまも残るなつかしく美しい津和野の風景、引きつがれている伝統は、その努力のたまものです。

「津和野百景図」と見比べながら津和野のまちを歩けば、津和野の人びとがどんなに大切にふるさとを守ってきたかを実感することができます。

「津和野百景図」に描かれた養老館内馬術練習（左）と左鑑の鮎（右）



ストーリーのポイント

 町並み・建築 人びとのくらし
 分類：地域型

所在自治体
 津和野町（島根県）

おもな構成文化財
 津和野城跡、弥栄神社の鷺舞神事、鷺原八幡宮の流鏝馬、喜時雨釜跡、戦の大曲、白糸の滝、旧津和野藩家老多胡家表門、藩校養老館、山陰道（野坂峠越）、津和野踊、蛭祭り、高崎亀井家跡など

フクロムシ
「百景図」

ふるさとへのほこり、 津和野のとおき

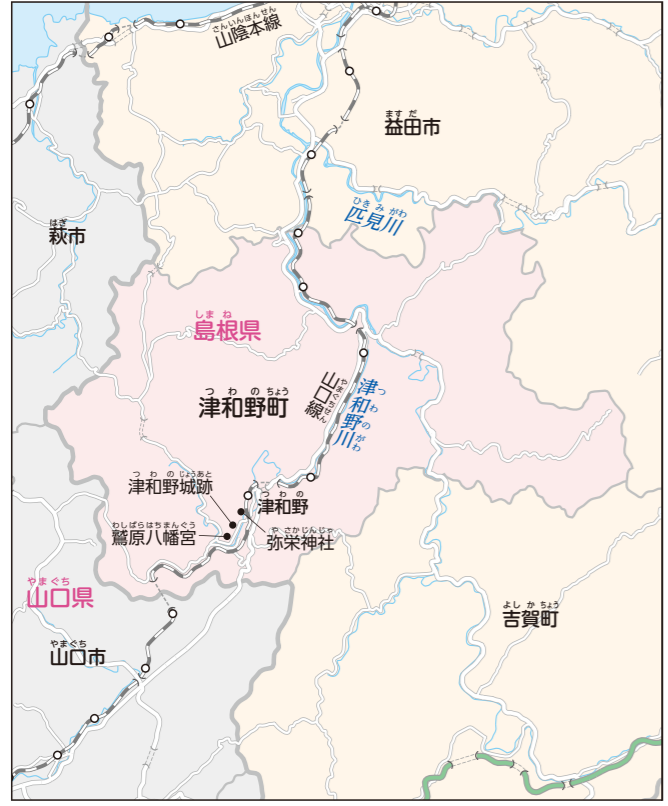


▲津和野の街並み
津和野のまちの中心にある殿町通り。城下町の名残を留める古い建物がある。

注目ポイント1
津和野の要～津和野城

津和野城は、津和野町の南部の山の上にあります。もともと敵の攻撃を防ぐために選ばれた場所で、けわしい山です。現在は、山頂近くまでリフトで登ることができます。

お城は江戸時代には三本松城とよばれ、まわりにはたくさんの松が植えられていました。松林では秋になると松茸が採れて、「百景図」にはお城に住む女性たちが松茸狩りをしている場面も描かれています。いまま津和野城跡には松がありますが、松茸は採れなくなりました。



津和野城のお城の建物は、明治時代のはじめ、政府の方針によってとりこわされました。でも頑丈に積まれた石垣は「百景図」に描かれたのと同じ堂どうとした姿で、いまま城跡に残っています。

「津和野百景図」に描かれた津和野城と現在の津和野城跡



お城をささえた立派な石垣は現在も残っている。

注目ポイント2
伝統の舞～鷺舞

「百景図」の中でもひととき目を引く絵が、弥栄神社の鷺舞です。鷺舞は現在も弥栄神社の夏のお祭りでおこなわれています。ふたりの舞人が、頭に鷺のかぶり物をかぶり、木でつくった白い羽根を肩に付け、お囃子に合わせて羽根を開いたり閉じたりしてゆったりと舞います。そのようすは「百景図」からぬけ出してきたように、昔のままです。

もともとは京都から山口へ、山口から津和野へと伝わった舞ですが、京都ではやがておこなわれなくなり、津和野で大切に受けつがれていきました。

「津和野百景図」に描かれた鷺舞と現在の弥栄神社の鷺舞



2羽の白鷺となって舞う優雅な舞には、400年の歴史がある。

コラム

「百景図」作者、栗本里治

「百景図」を描いた栗本里治は、江戸時代の終わりごろから津和野藩に仕えた武士です。役職は「御数寄屋番」。数寄屋とは茶室の別名で、お茶室管理係という意味ですが、それ以外にも、藩主である亀井茲監の身の回りのお世話を担当しました。その後、明治時代になり藩は廃止されましたが、明治時代の終わりころ、亀井家14代当主亀井茲常からの依頼で「百景図」を描き始めました。そして、昔描いたスケッチと里治の記憶をもとに、約4年の歳月をかけて描きあげたのです。だから、里治の描く津和野はリアルで写生的です。流鏝馬で、馬から振り落とされるのを心配して馬を追いかける人の表情、川の水面を埋めつくす魚の群れ。どれも生き生きとして魅力にあふれています。

「百景図」からは、津和野のよいところを形にして残そうという、里治のふるさとへの深い愛情が感じられます。



▲栗本里治
里治は、若いころ「狩野派」という有名な絵の流派に学んだ。「百景図」以外にも多くの津和野の絵を残している。

JAPAN HERITAGE

協力 文化庁、日本遺産連盟

編集・制作 株式会社アルバ

執筆協力 そらみつ企画、山内ススム、桑名妙子、田中孝典、西上原三千代、田島えり子、中島妙、木村芽久美

イラスト 小坂タイチ、黒須高嶺

地図制作 ジェオ

表紙・本文デザイン チャダル 108

DTP スタジオポルト

取材協力・写真提供 (株) TBS スパークル (BS-TBS『日本遺産』)

写真協力・資料提供 日本遺産所在自治体、関連各所

写真提供・協力 (順不同・敬称略)

(公財) 特別史跡旧閑谷学校顕彰保存会、史跡足利学校、大洗町幕末と明治の博物館、小野寺淳 (茨城大学教授)、茨城大学図書館、群馬県、「奥能登 天領庄屋中山家」庄屋計画推進委員会、若狭町歴史文化館、奈良文化財研究所、兵主大社、(公社)びわこビジターズビューロー、大西脩平、宇治市、公益社団法人京都府茶業会議所、明日香村教育委員会、国営飛鳥歴史公園、飛鳥寺、三徳山三佛寺、一般社団法人四国八十八ヶ所霊場会、靈山寺、大窪寺、公益財団法人古都大宰府保存協会、太宰府天満宮、壱岐市立一支国博物館、瑞巖寺、濱田喜幸、鹽竈神社、富士商工株式会社、羽黒観光協会、土津神社、福島県立博物館、恵隆寺、勝常寺、一般財団法人会津若松観光ビューロー、千葉県立中央図書館、千葉県立中央博物館 大利根分館、船橋市西図書館、鎌倉大仏殿高德院、鎌倉市観光協会、鶴岡八幡宮、鎌倉文学館、伝統鎌倉彫事業協同組合、長岡市立科学博物館、十日町市博物館、那谷寺、小松市立博物館、池戸比呂志、村瀬弘人准教授 (東京海洋大学 鯨類学研究室)、太地町くじらの博物館、公益社団法人和歌山県観光連盟、恩田雅裕、そば縁、横須賀市、安楽寺、今治市村上水軍博物館、因島水軍まつり実行委員会、佐賀県立九州陶磁文化館、一般社団法人伊万里市観光協会、一般社団法人長崎県観光連盟、井田家所蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館、酒田市立資料館、公益財団法人致道博物館、足袋とくらしの博物館、菊池川流域日本遺産協議会、東京都歴史文化財団イメージアーカイブ、平城京再生プロジェクト、正倉院正倉、環境省上川自然保護官事務所、湖北野鳥センター、星くずの里 たかやま黒耀石体験ミュージアム

参考文献

『新編 日本古典文学全集 古事記』(小学館) / 『日本文学全集 古事記』(河出書房新社) / 『岩波新書 風土記の世界』(岩波書店) / 『図説日本の妖怪』(河出書房新社) / 『日本大百科全書』(小学館) / 『世界大百科事典』(平凡社) / 『大増訂 国史大辞典』(吉川弘文館) / 『クジラとともに生きる』(臨川書店) / 『古事記～日本の神さまの物語～』(学研プラス) / 『ジュニア日本の歴史辞典』(岩崎書店) / 『ビジュアルワイド図説日本史』(東京書籍 但:2001年) / 『国際理解にやくだつ世界の神話 1 日本の神話』(ポプラ社) / 『絵でみる世界の名作 イラスト図解 古事記～神がみの物語一』(PHP 研究所) / 『21世紀子ども百科宇宙館』(小学館) / 『地図と絵でみる世界 7 地図と絵でみる世界の伝統産業・軽工業』(ポプラ社)

日本遺産 1 地域の歴史と伝統文化を学ぶ

発行 2019年11月 第1刷

発行者 千葉 均

編集 浦野由美子

発行所 株式会社ポプラ社

〒102-8519

東京都千代田区麹町 4-2-6

電話 03-5877-8109 (営業) 03-5877-8113 (編集)

ホームページ www.poplar.co.jp

印刷・製本 図書印刷株式会社

ISBN978-4-591-16357-3

N.D.C.709 / 255P / 29cm / Printed in Japan

P7209001



落丁・乱丁本はお取り替えいたします。小社宛にご連絡ください (電話 0120-666-553)。
受付時間は、月～金曜日、9時～17時です (祝日/休日は除く)。
本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められていません。